

中期プログラム：「イメージ研究の再構築」

このプログラムでは、従来美術史の対象とされてきた絵画を始めとするイメージ群を、「メタ・イメージ」、「パレルゴン」、「イメージとエクリチュール」「ジェネティック」という4つの視点から新たに捉え直す。すなわち、画中画や描かれた芸術家像などメタ・レベルのイメージの機能、イメージを枠づける付随的な要素の役割、イメージ（画像）とエクリチュール（文字）の多様な相関関係、イメージの生成から受容にまでいたる成立過程である。関心を共有する海外の研究者と連携しながら、正統的な美術史学に拘束されてきたイメージ群を異なる角度から照射し、その意味と機能を解明することを、本プログラムの大きな目標とする。

スケジュール（サンプル）

2009年度 夏学期	4月～9月 7月	●講義「メタ・イメージの諸相」（三浦篤／於東京大学） ●セミナーと講演「潜在的イメージをめぐる対話」（Dario Gamboni／於東京大学）
2009年度 冬学期	11月～12月 3月	●シンポジウム＋演習 ○シンポジウム「絵画の生成論」（於東京大学） ○演習：（三浦篤＋Ségolène Le Men／於東京大学） ●ワークショップ＋演習「イメージの中のイメージ」（三浦篤＋Dario Gamboni／於ジュネーヴ大学）（PD・RAによる発表）
2010年度 夏学期	4月～9月 6月（7月）	●講義「絵と文字の共生」（三浦篤／於東京大学） ●セミナーと講演「ディテールをめぐる断章」（Henri Zerner／於東京大学）
2010年度 冬学期	11月～12月 3月	●シンポジウム＋演習 ○シンポジウム「美術史とパレルゴン」（於東京大学） ○演習：（三浦篤＋Victor Stoichita／於東京大学） ●ワークショップ＋演習「イメージ研究の現在」（三浦篤＋Ségolène Le Men／於Paris, INHA）（PD・RAによる発表）
2011年度 夏学期	4月～9月 6月（7月）	●講義「美術史と記号論的アプローチ」（三浦篤／於東京大学） ●ワークショップ＋演習「美術史の再構築」（三浦篤＋Henri Zerner／於ハーヴァード大学）（PD・RAによる発表）
2011年度 冬学期	11月	●総合シンポジウム「イメージにおける世界と日本」（於東京大学）